

27 エリザベス・ガレット・アンダーソン病院の設立について

柳澤波香

青山学院大学兼任講師

津田塾大学非常勤講師

エリザベス・ガレット・アンダーソン病院 (Elizabeth Garrett Anderson Hospital) は、英国初の女性開業医エリザベス・ガレット・アンダーソン (一八三六年—一九一七年) により、一八六六年、St Mary's Dispensary for Women and Children の名称で、ロンドンに設立された。

設立の理念は、「女性による女性のための」診療であった。創設以来、二〇〇五年に至るまで、診療をはじめ、病院の管理や運営などすべてが女性スタッフによって担われてきたことは、この病院の大きな特徴である。

エリザベス・ガレットは、イングランド東部サフォークの裕福な商人の娘として生まれた。医師職が未だ

女性に解放されていなかった当時、彼女は、医師を志し、女性であるが故に被る差別と偏見とたたかい、刻苦の末、一八六五年、Society of Apothecaries の開業資格試験に合格した。Apothecary の資格を得た理由は、医師になるための受験資格が女性には与えられていなかったこと、当時の英国では apothecary が医業を行うことが認められており、性別による受験資格制限がなかったためである。

開業医としての資格を得たエリザベスは、一八六六年、マリルボーン地区の Seymour Place 六九番地に、子供と女性を対象とする診療所を開設した。診療所の設立には、疾病貧民の救済に理解を示した篤志家の他、エリザベスと共に、英国の婦人の社会的・経済的自立を促進する活動を展開していた中産階級の女性らが物心両面にわたり協力した。

診療所の近隣には、スラム街があり、貧しい女性や子供が病気にさらされていることを憂慮したエリザベスは、このような社会的弱者に対して、診療を無償で行った。外来患者数は、創設当時、一日約八〇名であった。

エリザベスは、労働者階級の女性に限らず、中・上流の女性の抱える精神的な悩みにも耳を傾け、生活上の習慣に起因すると思われる病気の治療にもあつた。女性患者たちは、階級を問わず、多産による疲労や体力の低下、男性による虐待など、男性医師には話しづらいと思われることを率直に伝えた。エリザベスは、診療所での活動を通じて、当時の女性の不健康な身体状況や、貧困や無知が病院の誘因となっていることをも認識し、女性を取り巻く社会環境についての洞察を深めた。なお、医師としての研鑽を怠らなかつたエリザベスは、一八六八年、ソルボンヌ大学よりメデイカル・ドクターの称号を得た。

エリザベスは一八七一年、実業家のアンダーソンと結婚した。結婚後も医業を続け、診療所は発展し、一八七二年、New Hospital for Womenとなった。さらに、患者数の増大に伴い、病院は、一八八八年、鉄道の駅に隣接したユーストン・ロードへと移転した。以後、ここは、「女性による女性のための」質の高い産婦人科医療を行う病院であると共に、産婦人科を志す女

性医師の医育機関としても広く知られるようになった。

一九九九年、病院は、Soho United Hospital for Womenと統合し、ユーストン・ロードから近いハントリイ・ストリートに移転、ロンドン大学ユニヴァーシティコレッジのNHストラスト傘下の病院となった。この統合により、創設以来の伝統であり、病院の最大の特徴であつた、「女性による女性のための」診療体制に見直しが行われることとなった。男性の婦人科医の雇用がこの地区の保健行政機関から提言されたためである。これに反対する一万人を超える署名が集められ、政府、保健省に嘆願が行われたが、二〇〇五年、男性医師が病院の診療スタッフに加わることにまつた。しかしながら、女性医師による診療に対する要望が根強いので、患者（女性）には、女性医師を主治医として指名できる権利が認められている。